



論理パーティション分割の設定

- [論理パーティションの概要 \(1 ページ\)](#)
- [論理パーティションの設定タスク フロー \(1 ページ\)](#)
- [論理パーティション分割の連携動作 \(9 ページ\)](#)
- [論理パーティション分割の制約事項 \(11 ページ\)](#)

論理パーティションの概要

論理パーティショニングを使用すると、コールの分離に関する規制要件を満たす一方で、単一のシステム上で PSTN と VoIP のコールをサポートできます。たとえば、インドの規制の制約の下では、外部電話機で送受信されたすべてのコールは、接続の完全な長さに応じたローカルまたは長距離のサービスプロバイダーによって送受信される必要があります。発信者の所在地と電話番号に従って PSTN または VoIP ネットワークに適切にコールをルーティングする単一の Unified Communications Manager クラスタを作成することができます。

論理パーティション設定では、どの VoIP デバイスが相互に通信できるかを定義します。ユーザは、1 本の PSTN と 1 回線を使用して VoIP を使用していることを覚えておく必要はありません。オフネットコールを行う電話機は、PSTN ゲートウェイとのみ通信することができます。VoIP および PSTN コールを個別に処理するために 2 つのネットワークを用意するのと似ていますが、デュアルインフラストラクチャの費用はかかりません。

論理パーティションの設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	論理パーティションの有効化 (2 ページ)	論理パーティションの有効化
ステップ 2	地理位置情報の設定 (3 ページ) を行うには、次のサブタスクを実行します。	地理位置情報を設定するのは、ロケーションの定義とそのデバイスへの割り当

	コマンドまたはアクション	目的
	<ul style="list-style-type: none"> • 地理位置情報の作成 (3 ページ) • 地理位置情報の割り当て (4 ページ) • デフォルトの地理位置情報の設定 (4 ページ) 	<p>での 2 段階のプロセスです。また、クラスタ内の全デバイスが使用するデフォルトのロケーションを設定できます。</p>
ステップ 3	論理パーティション分割のデフォルトポリシーの設定 (5 ページ)	位置情報または位置情報フィルタに関連付けられていないデバイスのデフォルトポリシーを設定します。このポリシーでは、これらのデバイス間の PSTN コールを許可または拒否します。
ステップ 4	論理パーティションのチェックを回避するためのデバイスの設定 (5 ページ)	デバイスとデバイスプールをパーティショニング チェックから特に除外できます。
ステップ 5	<p>地理位置情報フィルタの設定 (6 ページ) を行うには、次のサブタスクを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地理位置情報フィルタ ルールの作成 (6 ページ) • 地理位置情報フィルタの割り当て (7 ページ) • デフォルトの地理位置情報フィルタの設定 (8 ページ) 	<p>論理パーティショニングでは、ロケーションに基づいて、各デバイスに一意的 ID を割り当てます。1 つのデバイスが別のデバイスをコールすると、コールを許可するかどうかと、ルートが適切であるかを判断するために、これらの ID を使用します。この識別子の作成に使用するフィールドを選択できます。たとえば、ビルディング内の部屋またはフロアに応じて異なるポリシーを適用できます。</p>
ステップ 6	一連の論理パーティション分割ポリシーレコードの定義 (8 ページ)	地理位置情報中のコールを許可または拒否するための論理的なパーティショニング ポリシーのセットを定義します。地理位置情報間のコールの続行が許可される前に、システムはこれらのポリシーに基づいて指定された地理位置情報間でコールが許可されていることを確認します。
ステップ 7	(任意) ロケーション伝達の有効化 (9 ページ)	デバイスに関する位置情報をクラスタ間で伝達する必要がある場合は、ロケーション伝達を設定します。

論理パーティションの有効化

論理パーティション分割機能を有効化するには、この手順を使用します。

手順

-
- ステップ1** Cisco Unified CM Administrationから、[システム]>[企業パラメータ]を選択します。
- ステップ2** [論理パーティションを有効にする (Enable Logical Partitioning)]エンタープライズパラメータのドロップダウンリストから [True]を選択します。
- ステップ3** [保存 (Save)]をクリックします。
-

地理位置情報の設定

地理位置情報を設定するのは、ロケーションの定義とそのデバイスへの割り当ての2段階のプロセスです。また、クラスタ内の全デバイスが使用するデフォルトのロケーションを設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	地理位置情報の作成 (3 ページ)	地理位置情報を指定するには、地理的な場所を設定します。この情報は、デバイスを論理パーティション分割などの規制機能と関連付けるために使用されます。地理位置情報は、国内の規制など、ポリシーの判断で使用されます。
ステップ2	地理位置情報の割り当て (4 ページ)	デバイスまたはデバイス プールに地理位置情報を割り当てます。
ステップ3	デフォルトの地理位置情報の設定 (4 ページ)	このクラスタ内のすべてのデバイスとデバイスプールのデフォルトの地理位置情報を指定します。

地理位置情報の作成

システムのデバイスに割り当てる地理位置情報を作成するには、次の手順を使用します。論理パーティションには地理位置情報を使用できます。

手順

-
- ステップ1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)]>[地理位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]を選択します。
- ステップ2** [新規追加] をクリックします。
- ステップ3** 地理位置情報の [名前 (Name)]を入力します。

- ステップ 4** [地理位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。
- ステップ 6** さらに地理位置情報を作成するには、この手順を繰り返します。
-

地理位置情報の割り当て

デバイスまたはデバイス プールに地理位置情報を割り当てます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、次のいずれかのメニュー項目を選択します。

- [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]
- [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)]
- [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)]
- [システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)]

ステップ 2 次のいずれかの作業を実行します。

- 既存のデバイスまたはデバイス プールの設定を変更するには、[検索 (Find)] をクリックします。検索条件を入力し、結果のリストから既存のデバイスまたはデバイスプールを選択します。
- 新しいデバイスまたはデバイス プールを追加するには、[新規追加] をクリックします。デバイスについては、必要に応じてデバイスのタイプとプロトコルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 3 地理位置情報ドロップダウンリストから、設定した地理位置情報を選択します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

デフォルトの地理位置情報の設定

このクラスタ内のすべてのデバイスとデバイスプールのデフォルトの地理位置情報を指定します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム] > [企業パラメータ] を選択します。

ステップ 2 [デフォルトの地理位置情報 (Default Geolocation)] ドロップダウンリストから、設定した地理位置情報を選択します。デフォルト値は、[未指定 (Unspecified)] です。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

ステップ4 [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。

ステップ5 (任意) 特定のデバイスまたはデバイス プールでこのデフォルトをオーバーライドする必要がある場合は、[デバイス設定 (Device Configuration)] または [デバイス プール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウのいずれかに値を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

論理パーティション分割のデフォルトポリシーの設定

位置情報または位置情報フィルタに関連付けられていないデバイスのデフォルトポリシーを設定します。このポリシーでは、これらのデバイス間の PSTN コールを許可または拒否します。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [論理パーティション分割ポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] を選択します。

ステップ2 [新規追加] をクリックします。

ステップ3 [論理パーティション分割ポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンライン ヘルプを参照してください。

ステップ4 [保存] をクリックします。

(注) 値の [許可 (Allow)] が含まれていたポリシーの値が、後で [拒否 (Deny)] に変更された場合、そのポリシーは [拒否 (Deny)] のままになります。逆も同様です。前に [拒否 (Deny)] に設定されていて、後で [許可 (Allow)] に変更されたポリシーは、[許可 (Allow)] になります。[Cisco Unified Reporting] > [地理位置情報ポリシー レポート (Geolocation Policy Report)] を使用して、重複するポリシーを特定できます。

論理パーティションのチェックを回避するためのデバイスの設定

デバイスとデバイスプールをパーティショニング チェックから特に除外できます。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、次のいずれかのメニュー項目を選択します。

- [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]
- [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)]
- [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)]
- [システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)]

ステップ2 次のいずれかの作業を実行します。

- 既存のデバイスまたはデバイス プールの設定を変更するには、[検索 (Find)] をクリックします。 検索条件を入力し、結果のリストから既存のデバイスまたはデバイス プールを選択します。
- 新しいデバイスまたはデバイス プールを追加するには、[新規追加] をクリックします。 デバイスについては、必要に応じてデバイスのタイプとプロトコルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ3 地理位置情報ドロップダウンリストから、**未指定**を選択します。

ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。

地理位置情報フィルタの設定

論理パーティショニングでは、ロケーションに基づいて、各デバイスに一意の ID を割り当てます。1つのデバイスが別のデバイスをコールすると、コールを許可するかどうかと、ルートが適切であるかを判別するために、これらの ID を使用します。この識別子の作成に使用するフィールドを選択できます。たとえば、ビルディング内の部屋またはフロアに応じて異なるポリシーを適用できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	地理位置情報フィルタ ルールの作成 (6 ページ)	地理位置情報識別子を作成するために使用するフィールドを指定するために、地理位置情報フィルタを設定します。この機能は、地理位置情報オブジェクトのサブセットで、ポリシー決定を行うために使用されます。
ステップ2	地理位置情報フィルタの割り当て (7 ページ)	
ステップ3	デフォルトの地理位置情報フィルタの設定 (8 ページ)	デフォルトの地理位置情報フィルタエンタープライズパラメータを設定して、クラスタのデフォルトの地理位置情報フィルタを指定します。このパラメータは、地理位置情報が関連付けられていないすべてのデバイスおよびデバイスプールのデフォルトの地理位置情報フィルタ設定を決定します。

地理位置情報フィルタ ルールの作成

論理パーティション分割の決定に使用できる地理位置情報フィルタを作成するには、この手順を使用します。

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [地理位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] の順に選択します。
 - ステップ2 [新規追加] をクリックします。
 - ステップ3 フィルタの [名前 (Name)] と [説明 (Description)] を入力します。
 - ステップ4 論理パーティション分割の決定に使用する項目に対応するチェックボックスをオンにします。
 - ステップ5 [地理位置情報フィルタの設定 (Geolocation Filter Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
 - ステップ6 [保存] をクリックします。
 - ステップ7 これらの手順を繰り返して、追加の地理位置情報フィルタを作成します。
-

地理位置情報フィルタの割り当て

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、次のいずれかのメニュー項目を選択します。
 - [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]
 - [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)]
 - [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)]
 - [システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)]
 - ステップ2 次のいずれかの作業を実行します。
 - 既存のデバイスまたはデバイスプールの設定を変更するには、[検索 (Find)] をクリックします。検索条件を入力し、結果のリストから既存のデバイスまたはデバイスプールを選択します。
 - 新しいデバイスまたはデバイスプールを追加するには、[新規追加] をクリックします。デバイスについては、必要に応じてデバイスのタイプとプロトコルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ3 地理位置情報フィルタ ドロップダウンリストから、設定した地理位置情報を選択します。
 - ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。
-

デフォルトの地理位置情報フィルタの設定

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administrationから、[システム]>[企業パラメータ]を選択します。
- ステップ 2** [デフォルトの地理位置情報 (Default Geolocation)] ドロップダウンリストから、設定した地理位置情報を選択します。デフォルト値は、[未指定 (Unspecified)] です。
- ステップ 3** [保存] をクリックします。
- ステップ 4** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
- ステップ 5** (任意) 特定のデバイスまたはデバイス プールでこのデフォルトをオーバーライドする必要がある場合は、[デバイス設定 (Device Configuration)] または [デバイス プール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウのいずれかに地理位置情報フィルタのデフォルト値を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
-

一連の論理パーティション分割ポリシー レコードの定義

地理位置情報中のコールを許可または拒否するための論理的なパーティショニングポリシーのセットを定義します。地理位置情報間のコールの続行が許可される前に、システムはこれらのポリシーに基づいて指定された地理位置情報間でコールが許可されていることを確認します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[コールルーティング (Call Routing)] > [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を実行します。
- 既存の論理パーティションポリシーの設定を変更するには、[検索 (Find)] をクリックします。検索条件を入力し、結果のリストから既存の論理パーティションポリシーを選択します。
 - 新しい論理パーティションポリシーを追加するには、[新規追加] をクリックします。
- ステップ 3** [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] ウィンドウの各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- (注) ポリシーに設定値を指定せずに空欄のままにした場合、ブランクの地理位置情報ポリシーになります。論理パーティション分割が空欄になっている特定のデバイスタイプに対して論理ポリシーを設定すると、Unified Communications Manager によって、設定されたデバイスタイプにポリシーの値 ([許可 (Allow)] または [拒否 (Deny)]) が追加されます。

ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。

ロケーション伝達の有効化

ロケーション伝達は、クラスタ間で地理位置情報を共有できるようにするためのオプションの設定です。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] を選択します。

ステップ2 次のいずれかを実行します。

- 既存のトランクを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。
- [新規追加] をクリックして、新しいトランクを設定します。

ステップ3 [トランクの設定] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ4 [位置情報] 領域で、**地理位置情報**と**地理位置情報フィルター**を選択します。

ステップ5 場所の伝達を有効にするには、[地理位置情報を送信する] チェックボックスをオンにします。

ステップ6 [保存 (Save)] をクリックします。

論理パーティション分割の連携動作

表 1: 論理パーティション分割の連携動作

機能	データのやり取り
アドホック会議、参加、複数ライン同時通話機能、不在転送、コール転送	<p>論理パーティション分割は、次の状況では行われません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての参加者が VoIP 電話機である場合。 • 位置情報と位置情報フィルタがどのデバイスにも関連付けられていない場合。

機能	データのやり取り
割り込み、C 割り込み、およびリモート再開	<p>論理パーティション分割は、次の状況では行われません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 発信側と着信側の両方のデバイスが VoIP 電話機であるときに、論理パーティションポリシーチェックが無視される場合。 • C 割り込み/割り込みの参加者の場合、論理パーティションポリシーチェックが存在せず、論理パーティション拒否シナリオを防止できません。
Cisco Unified Mobility	<p>論理パーティション分割は、次の状況では行われません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 位置情報または位置情報フィルタが、参加するデバイスに関連付けられていない場合。 • デュアルモードの電話機を使用するとき、論理パーティション分割サポートはありません。
CTI 処理	<p>論理パーティション分割は、次の状況では行われません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 位置情報または位置情報フィルタがデバイスに関連付けられていないときに、処理が発生しない場合。 • 参加しているすべてのデバイスが VoIP 電話機であるときに、処理が発生しない場合。
エクステンションモビリティ	<p>論理パーティション分割は、次の状況では行われません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地理位置情報または地理位置情報フィルタが、Cisco Extension Mobility にログインする VoIP 電話機にも、発信側と着信側のデバイスにも関連付けられない場合。 • Cisco Extension Mobility にログインする VoIP 電話機がコールするか、または VoIP 電話機からのコールを取得する場合。
Meet-Me 会議	<p>論理パーティション分割は、次の状況では行われません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての参加者が VoIP 電話機であるときに、処理が発生しない場合。 • 位置情報または位置情報フィルタがデバイスに関連付けられていないと、そのデバイスに対してポリシーチェックが実行されない場合。

機能	データのやり取り
ルートリストおよびハンドパイロット	<p>論理パーティション分割は、次の状況では行われません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 発信側と着信側の両方のデバイスが VoIP 電話機であるときに、処理が発生しない場合。 • すべてのデバイスに位置情報と位置情報フィルタの両方を関連付ける必要がある場合。デバイスに位置情報も位置情報フィルタも関連付けられていない場合、処理は発生しません。
共有回線	<p>論理パーティション分割は、次の状況では行われません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 発信側と着信側の両方のデバイスが VoIP 電話機であるときに、処理が発生しない場合。 • 位置情報または位置情報フィルタがデバイスに関連付けられていないときに、処理が発生しない場合。

論理パーティション分割の制約事項

表 2: 論理パーティション分割の制約事項

制約事項	説明
割り込み/C 割り込み	<p>Barge/cBarge は発生しません。コールインスタンスが削除されます。</p> <p>C 割り込み/割り込みの参加者の場合、論理パーティションポリシーチェックが存在せず、論理パーティション拒否シナリオを防止できません。</p>
BLF プレゼンス	<p>論理パーティションポリシーでは、BLF プレゼンス通知はチェックされません。</p>
Cisco Extension Mobility	<p>Cisco Extension Mobilityが別の位置情報の電話機にログインする場合、ローカルルートグループが設定されているときに、発信 PSTN コールが発生する可能性があります。着信 PSTN コールは電話機に対して発信されませんが、リオーダー音を受信します。</p>
Cisco Unified MeetingPlace	<p>システムは、Cisco Unified MeetingPlace または Cisco Unified MeetingPlace Express に関連するコールの論理パーティション機能をサポートしていません。</p>
会議	<p>会議チェーンで会議をまたぐ参加者に対して論理パーティションチェックがサポートされない。</p> <p>たとえば、ミーティングおよびアドホックの会議チェーンには、論理パーティション拒否の参加者が参加できます。</p>

制約事項	説明
H.225 ゲートキーパー制御トランク	Cisco Unified Communications Manager は、H.225 ゲートキーパー制御のトランク経由で位置情報を通知しない。
323 および MGCP ゲートウェイ	Cisco Unified Communications Manager は、塵位置情報を H.323 または MGCP ゲートウェイに通知しない。 SIP トランクのチェックボックスに基づいて、SIP ゲートウェイへの通信を無効にすることができます。
モビリティ携帯電話ピックアップ	携帯電話でコールに応答すると、論理パーティション拒否処理が実行されます。 コールが携帯電話に発信される前に、論理パーティションポリシーチェックは発生しません（基本 SNR コールの場合には発生します）。システムは、携帯電話がコールに応答した後、論理パーティション分割ポリシーを確認します。
QSIG クラスタ間トランク	Q.SIG プロトコルを使用したクラスタ間トランク (ICT) は、発信者または受信側デバイスの地理位置情報を通信することを許可されていません。Q.SIG トンネル化プロトコルが選択されたときには、「[地理位置情報の送信]」の ICT 設定が無効になります。
リオーダー音	IOS H.323 ゲートウェイおよび SIP ゲートウェイでは、コールの接続がリリースされても、論理パーティションポリシーにより、リオーダー音が発生しません。
共有回線アクティブコール	論理パーティションが制限されるシナリオでは、ある機能によって共有回線コールが許可カテゴリに移動される場合でも、共有回線はコール期間中にアクティブ通話情報をドロップします。
User Agent Server; ユーザエージェントサーバ	この位置情報を受信する論理パーティション対応クラスタで実行される論理パーティションポリシーチェックでは、ポリシーが拒否されると、コールがキャンセルされることがあります。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。